

『地域資源の保全や伝統芸能の継承』

事業実施主体: 神子区むらづくり委員会(さつま町)

協働団体: 奥薩摩のホタルを守る会

現状及び課題

神子区は、さつま町の北部に位置し、北に鶴田ダム、東に川内川が流れる農村集落である。

神子区には10の公民会があり、それぞれ特徴を生かした公民会活動を展開しており、人口減少により過疎化、高齢化が進行する中、将来にわたり充実した公民会活動を実施するために、公民会の合併が課題となっている。

また、水稻栽培を中心とした兼業農家が殆どであり、農業者の高齢化や担い手不足等で耕作放棄地も増加していることから、農業における担い手や集落営農組織の育成が必要となっている。

一方、ホタルなどの地域資源を活用した都市農村交流を行っており、より参加者を増加させるために、地域資源を生かした魅力ある取組を行うことが課題となっている。

活動内容

① 都市農村交流の活性化

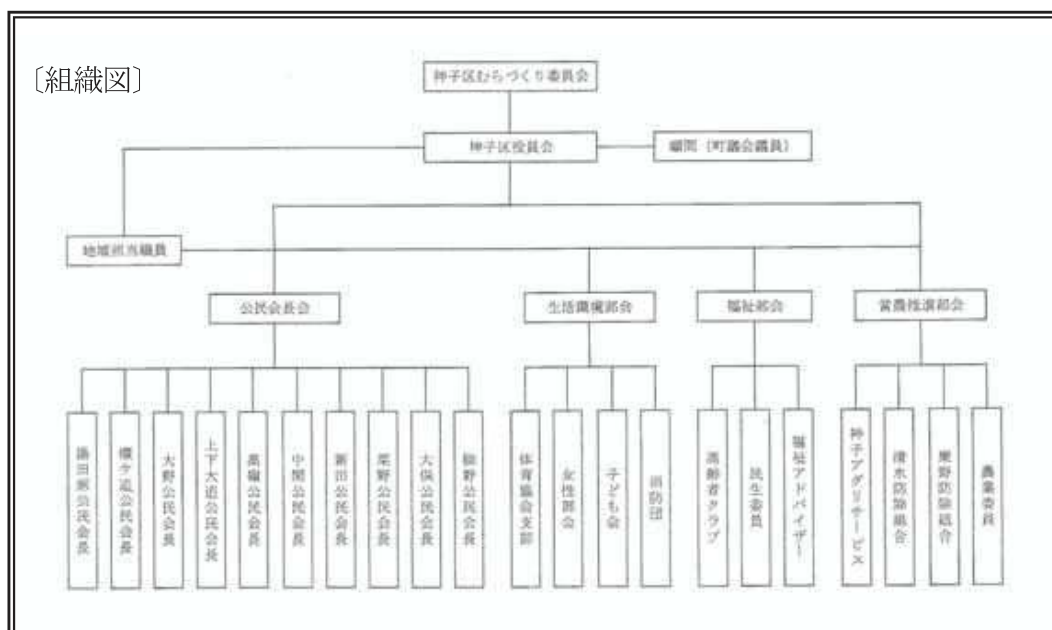
「奥薩摩のホタルを守る会」と連携を図りながら、ホタルの里にふさわしい集落環境等を検討し、「ホタル舟」や「さつま龍舟祭」など地域資源を活用した交流活動の促進を図った。

また、「ホタルの里ジョギング大会」を開催し、世代間の交流、青少年の健全育成、健康づくりに取り組んだ。



さつま龍舟祭

〔組織図〕



② 農産品販売支援

「ホタル」をイメージしたシールの作成など、神子区で生産される農産物等の販売促進策を検討した。

③ 食の伝承

地域の食材を活用した郷土食づくり(手コンニャクなど)を通じて、高齢者による地域の住民へ食の伝承を図った。

また、「ホタル舟」開催時にこれらを提供できないか検討した。

④ 伝統文化の継承

過疎化、高齢化により、集落の伝統芸能である浅山踊りの担い手も高齢化し、地区内の子ども達も減少してきているため、小学生の頃から伝統芸能の継承に携われるように地域内の大人達が指導に取り組んだ。

また、区と小学校の合同運動会などで、これらを披露するなど、地区のPRを図った。

ホタルをイメージしたシールも作成した。

このシールは、地元の農産物の販売促進と地域のPRを図るため、直売所などで販売される農産物などに貼られている。

このほか、「奥薩摩ホタル舟」や「さつま龍舟祭」、「神子区夏祭り」などに対して地域と「奥薩摩のホタルを守る会」が一体となった取組で地域活性化を図った。



浅山踊りの伝承

共生・協働の状況

平成 18 年の県北部豪雨災害により減少したホタルを増やすために「奥薩摩のホタルを守る会」と協働で、生息環境の整備や生息調査を実施し、ホタルの回復に取り組んだ。

また、地元の小学生が提案した図案を基に



ホタルをイメージしたシール

事業の成果

① 都市農村交流の活性化

ホタル舟の運航やさつま龍舟祭などを、「奥薩摩のホタルを守る会」と協働して開催した結果、ホタル舟の乗船者数が 2,000 人を超えるとともに、さつま龍舟祭には 90 団体 (900 人) の参加があった。

また、ホタルの里ジョギング大会は 300 人の参加があるなど、活発に都市農村交流を図ることができた。

② 特産品販売支援

農産物や特産品等の販売促進のため、ホタルをイメージしたシール作りに小学生が参加するなど、多様な主体と連携が図られた。

③ 伝統文化の継承

小学生に郷土芸能(浅山踊り)を指導し、これを小学校の運動会で披露した。

④ 食の伝承

手コニャクや手打ちそば作りの伝承を行い、イベントなどでも提供した。

- ⑤ 「奥薩摩のホタルを守る会」との連携協働して川の清掃活動を行うとともに、ホタルの生息調査や餌のカワニナの調査を行い、ホタル舟の適期の運航スケジュールを決めることができた。

これらの活動に取り組んだことで、地域の連帯感がより一層高まった。



郷土食の伝承風景

今後の課題と展望

リーダーの育成や地区民の積極的な参加を図るため、先進地研修などを行いながら人材育成を図っていききたい。

農業者の高齢化や担い手不足により、むらづくり活動の低下が懸念されることから、新規就農者の育成や集落営農の組織化などの取組も必要である。

また、舟などの施設の定期的な整備も必要であり、これらの財源確保に向けた取組も検討していききたい。

奥薩摩のホタルを守る会と協働で「ホタル舟」や「さつま龍舟祭」を開催しているが、このほか、地域内にある史跡や観光地などの地域資源を活用できるよう散策ガイドブックなどの作成にも取り組んでいきたい。

リーダーの感想

リーダー 神子区むらづくり委員会
会長 下大迫 次男 氏

『今回の事業に取り組んだことで、イベントが盛り上がったと感じており、地域内の結束が図られたことは大変有意義であったと感じている。



今後も地域はもとより地域おこし団体と協働して神子区を盛り上げていきたい。』

地区情報

構成集落（10集落）

湯田原、櫃ヶ迫、大野、上下大迫、高嶺、中間、新田、栗野、柳野、大俣

人口構成

（1）総人口 1,218人

（65歳以上の割合 33.5%）

（2）総世帯数 481戸

（うち農家戸数 223戸）

耕地面積：127ヘクタール

主要作物

水稻、生産牛、イチゴ、野菜、養豚

問い合わせ先

さつま町 担い手育成支援室

電話番号：0996(53)1111(代)

北薩地域振興局農林水産部農政普及課

電話番号：0996(25)5530

奥薩摩のホタルを守る会から

むらづくりに携わった感想

今までもホタル舟の運航には協力してきていたが、今回は話し合いから参加し、運営はもちろんのこと河川の清掃作業やカワニナの生息調査まで、地域と一体となりできたことは大変良かったと思う。今後も色々な場面で私たちの持っている施設等を活用したり、助言をしていきたい。

神子区が計画していた行事と一緒に参加できたことは、今後の奥薩摩のホタルを守る会の活動にも活かせると感じた。

地域での活動に対するリーダーの必要性を強く感じた。今回、「やねだん」への研修に地域と一緒に参加したことで、特にそのことを感じた。

人口が少なくなり、高齢化が進んでおり、農業への新規参入者の育成や集落営農の取組が必要と感じた。

地区内にはまだまだ活用されていない資源が沢山あると思う。地域と連携し（話し合い）少しでも神子区が活性化することを期待したい。

奥薩摩のホタルを守る会
副会長 中園 瀧男



河川清掃の様子

協働団体の概要

代表者名/鳥飼 勉

所在地/さつま町神子663-1

連絡先/0996-53-1111(内線 4211)

設立年/平成16年4月1日

設立趣旨/

奥薩摩のホタル舟運航を通して、ふるさととの良さを再認識し、ふるさとへの自信と誇りを持ち、ひいては、地域の産業・経済活性化及び環境保護活動に寄与する。

団体のPR/

長年にわたり、奥薩摩のホタル舟運航に携わってきた。この経験を生かして地域の活性化に地域と連携し取り組んでいきたい。



ホタル舟運行の様子

『大学や企業と連携した地域活性化の取組』

事業実施主体: 佳例川地区自治公民館(霧島市)

協働団体: 鹿児島大学農学部

現状及び課題

佳例川地区は、霧島市の南東部に位置し菱田川源流域に広がる農村地帯であり、稲作や畜産（和牛子牛生産）の盛んな地域である。当地区の産土神として崇敬されている飯富神社（1033年創建）には、「地区民に穀物の種子を与えた」という言い伝えが残っており、早い時期から稲作の栽培が始まり、島津庄の開発地としても注目された由緒あるところである。

佳例川自治公民館は、10集落からなり、近年、過疎・高齢化の進展に伴い、地域人口が減少し、65歳以上の高齢者が過半数を占めるようになり、後継者のいない高齢農家も多く、先祖代々引き継がれてきた農地が荒廃することなど集落機能が崩壊するのではないかと不安を抱いている。

また、菱田川の源流域のきれいな水と山間地が育んだ米は、「おいしい米」と自負しているものの、他地域との差別化や直売所以外の

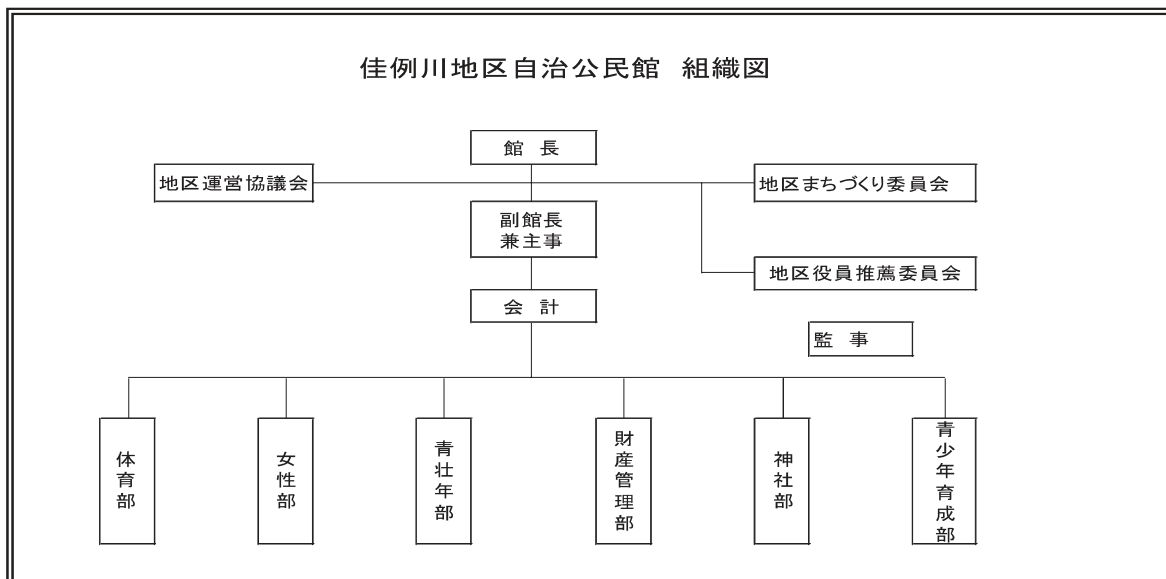
新たな販売先の確保と高付加価値化が課題となっている。

地区内には、春のお田植え祭り、秋の収穫祭をはじめ、耕作の安全を祈願する羽山祭り等が継承されており、これらの伝統行事を活用した都市住民との交流による地域の活性化が必要である。

活動内容

- 鹿児島大学による地区内農家の実態調査と消費動向調査の実施
- 佳例川の魅力を情報発信するための地域案内資料「あぜ道マップ」の作成
- 都市農村交流による農村活性化へ向けたイベントの開催
- 鹿児島大学による農村活性化のためのビジネスモデルの提案
- 地域特産品（「佳例川源流米」や地元産イモを原料とした焼酎）による地域活性化

佳例川地区自治公民館 組織図





地域の魅力を紹介するあぜ道マップの作成



学生達による農家への聞き取り調査



地域外からの参加もあった新米ウォーキング



企業との協働活動（ウォークラリーの開催）

共生・協働の状況

鹿児島大学の学生たちと協働で、農産物や景観など地域資源を活かした地域の活性化策を検討するため、過疎・高齢化、担い手不足に悩む農家への聞き取り調査や、史跡などの資源調査、都市住民への消費動向調査を実施した。

現地調査の際には、学生たちが地区の農家などに泊まり込み、調査と併せて交流も図ることができた。

また、学生たちは地区の行事や農地・農業用施設などの保全活動に参加するなど継続的な交流を行っている。

さらに、鹿児島大学の提案により、地元企

業のトヨタ車体研究所と連携することとなった。同社はCSR活動（企業の社会的責任）の一環として、社員などが参加したウォークラリーの開催や地区の祭りへの参加などを通じて交流を深めている。

事業の成果

- 交流人口を増やすため、「新米ウォーキング」を開催し、地域外から多くの参加があった。ウォーキング後は、地元農産物を抽選でプレゼントしたり、野菜や加工品などの販売を行い、佳例川の魅力をPRすることができた。

（H25. 11. 23 参加者 130 名）

- 鹿児島大学から、地域活性化へ向けたビジネスモデルの提案がなされ、その中から、今、取り組めることとして、地域内に情報発信の拠点施設「かれがあの焼酎屋」を開設した。「かれがあの焼酎屋」では、地元で採れる稀少価値のあるさつまいも「蔓無源氏」を原料とした焼酎販売を開始した。
(H25.12.15 オープン)

- トヨタ車体研究所と連携して、社員による佳例川ウォーキングや社員食堂での「佳例川源流米」の利用イベントなどを開催し、農産物の販売促進や交流拡大を図ることができた。また、「蔓無源氏」を原料とした焼酎の購入などによる地域支援も始まった。



地域内にオープンした「かれがあの焼酎屋」

今後の課題と展望

- 提案されたビジネスモデルを地域住民及び行政等と十分検討し、緊急性等を考慮し、実現可能なものから実施していく。
- 地域内農地の荒廃地の縮減に努め、そこで水稻や焼酎原料用イモを作付けし、地域特産品「佳例川源流米」や焼酎「蔓無源氏」等を交流イベント等での販売促進に努め、地域活性化を図る。
- 「かれがあの焼酎屋」を発展させ、新たな地域特産品づくりに取り組みたい。

- トヨタ車体研究所との協働で、森林による二酸化炭素吸収効果の実証等への取り組みを検討している。

リーダーの感想

リーダー 霧島市佳例川地区自治公民館
館長 板元 岩雄 氏

『県議会で視察が入るなど、活性化プランづくりの成果は評価いただいたのではないかと思います。』

『今後も、これらの活動が継続できるように取り組んでいきたい。』



地区情報

構成集落 (10 集落)

割子田、池田、柴建、前川内、内場、牧野、牧野中、立元、六村、辰伴

人口構成

(1) 総人口 362 人
(65 歳以上の割合 51.1%)

(2) 総世帯数 168 戸
(うち農家戸数 119 戸)

耕地面積：379.4 ヘクタール

主要作物

水稻、からいも、里いも、らっきょう

問い合わせ先

霧島市福山総合支所 産業建設課

電話番号：0995(56)2116(代)

始良・伊佐地域振興局農林水産部農政普及課

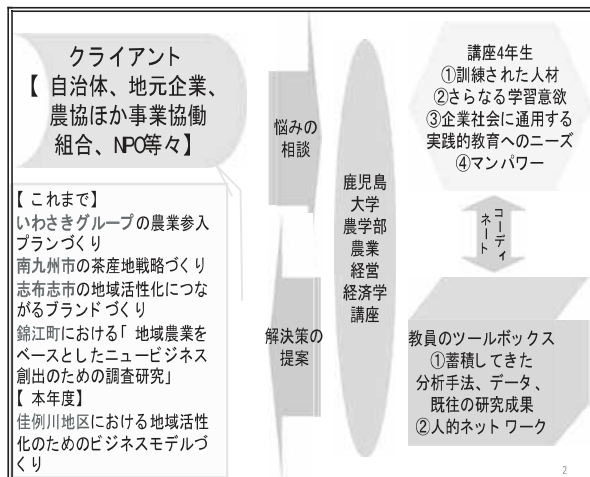
電話番号：0995(63)8146

鹿児島大学農学部から

むらづくりに携わった感想

- 座学中心の大学教育に、現場教育を加えることができ、学生にとっては実社会を学ぶチャンスとなった。
- 地域住民自らは見つけきれない、地域が抱える課題や活性化に生かす地域資源を、学生の目線で整理することに大きな意義がある。
- 大学の学習により蓄積した分析手法は、科学的な根拠に基づく地域活性化事業モデルの作成に大きく役立った。

鹿児島大学農学部
准教授 李 哉法



学生達による地域資源調査の様子

団体の概要

代表者名/鹿児島大学農学部 李 哉法
所在地/鹿児島市郡元1丁目21番24号
連絡先/099-285-8625

団体のPR/

鹿児島大学農学部・生物生産学科・農業経営経済学講座では、県内の自治体、地元の企業、農協などの事業協働組合からの依頼を受け、各々の地域や組織が抱えている課題の解決を試みる「ソリューションプログラム」を運用している。

左図は、そのプログラムの仕組みやこれまでの実績を示したものである。

今後においても、様々な悩みを抱えている、県内の自治体や企業・事業協働組合からのご相談に積極的に応じ、地域社会や経済に貢献できる活動を続けていきたい。



羽山祭りでジャンベ演奏を披露



お田植え祭への参加

『大学による地域資源を活用した地域活性化策の提案』

事業実施主体：^{きしら}岸良地域づくり協議会(肝付町)
協働団体：鹿児島大学農学部

現状及び課題

岸良地区は、肝付町の中心部から離れており、交通手段もなく、商店街もないため、過疎化・高齢化の進んだ地区である。

岸良地区の特産品はポンカン、タンカンなどの柑橘類であり「岸良ブランド」として確立されているが、同時期に大量に出回ることから安値での販売となっている。

また、水産物も加工販売が無いため、安定した収入に繋がっていないことから、これら地域資源の活用や都市農村交流などの取組が必要となっている。

このような中、自然豊かな故郷に活力を呼び戻すために、住民相互の協力と融和により地域活性化を図ろうと、平成20年に「岸良地域づくり協議会」を立ち上げ、観光名所の清掃やボランティア活動など、地域活性化に取り組んでいる。

活動内容

鹿児島大学農学部の学生等とともに、現地調査やアンケート調査の実施・分析、先進地視察などを行い、岸良地区にあった活性化策の策定に向け、5つのテーマを設定し、学生と地域住民によるワークショップを開催した。

平成25年7月の中間段階での地域づくりプランの骨子は下図のとおりである。

地域課題		戦略
特産品作り	辺塚ダイダイ・ソラマメ・ポンカン・ハヤトウリ	生産拡大と担い手・加工品開発・ブランド化・販売チャネル開発
地域での持続的な暮らし	地域売店・軽トラック販売・サポートシステム・孫戻し	プラス50万円
地域主体の形成	地域会社(ソーシャルビジネス)・高齢者就業・集落営農	作業受託
都市農村交流	ダッシュ村、グリーンツーリズム、半農半X	イベント活用
地域エネルギー	小水力発電・バイオエネルギー・薪	ロケットコンロ

第1の柱は「特産品づくり」で、地域農産物である辺塚ダイダイ、ソラマメ、ポンカンの生産拡大、加工品の販売、ブランド化、販売チャネルの構築が戦略として示された。この中でハヤトウリの生産と加工が新たに提案され、参加者の関心を引いた。

第2の柱は「地域での持続的な暮らし」では、アンケート分析から交通の不便さが地域課題として浮かび上がったことから、地域売店、軽トラック販売などの買い物難民対策について提案が行われた。

第3の柱は、「地域主体の形成」で地域課題を解決していく組織体として地域会社の設立が提案された。この案に基づき現地視察が計画された。

第4の柱は、「都市農村交流」でグリーンツーリズムや民泊およびアンテナショップなどの可能性が提案された。



住民との意見交換

第5の柱は、「地域エネルギー」の提案で、小水力発電やバイオエネルギーが提案されたが、小水力発電については、すでに取組が行われているとの報告があった。

地元での協議を踏まえて先進地視察が計画

され、平成25年9月に伊佐市菱刈町東市山の(株)「やまびこの郷」と鹿児島市の漬物加工業者の視察を行った。

「やまびこの郷」は集落営農から一歩抜け出て株式会社を立ち上げ、販売戦略をもとに地域活性化をしている事例である。また、鹿児島市の漬物加工業者とは、ハヤトウリの加工の可能性について見解をうかがうなど、意見交換を行った。ハヤトウリの漬物は、生産体制を整えれば可能であるが、加工は高度な技術が必要であり、販売ルートを開拓してから取り組むのがよい、「イプシロン漬け」の商標を取った方がいいとのアドバイスを受けた。



視察：菱刈町東市山（左）藤崎商事（右）

共生・協働の状況

鹿児島大学農学部と協働で、岸良地区の活性化を図るため、地域資源を活用した特産品販売や岸良の良さをPRする情報発信などを通じて、将来の「岸良ブランド」を確立することを目標に、岸良地区の魅力を再発見しながら、岸良地区に合った活性化策の策定に取り組んだ。

学生達は、大学での事前調査や検討会などを経て、平成25年2月に学生等23名が2泊3日で、現地調査及び交流会を実施した。現地調査では、地域住民への面接調査や森林組合への聞き取り調査を行い、交流会では、農作業手伝いや意見交換会を実施するなど、地域住民との親睦を図りながら、課題発見に取り組んだ。

また、住民へのアンケート調査を実施（約

180件の回答を回収）し、集計分析を行うとともに、住民との意見交換を行った。意見交換会は、ワークショップ形式で行われ、参加者から活発な意見が出された。



ワークショップの様子

事業の成果

地元での協議、先進地視察を踏まえて鹿児島大学から次の5つの提案が行われた。

第1分科会では、「地域定住条件の整備」をメインテーマに、直売所の設立を柱とし、買い物難民対策をサブテーマにした。辺塚海岸周辺では、瀬渡しなどによる釣り客が多いことから、現在の肝付町岸良出張所に特産品販売の拠点（直売所）をつくり、特産品をPRすることが提案された。

第2分科会では、「特産品の開発と販売」をメインテーマにし、岸良のポスター・カレンダー作成および辺塚ダイダイの香水づくりなど、実演を含めて論議した。ポスター・カレンダーは岸良外部にも販売できるようなもの、帰省者に購入してもらえるもの、特産品とのセット販売が提案された。

この中で、石けんの試作が行われた一方で、香水もつくりたいという意見があり、岸良オリジナル香水の商品化の可能性について提案された。

リーダーの感想

リーダー 岸良地域づくり協議会
会長 竹中 一信 氏

『岸良地域での
地域を挙げた様
々な活動に取り
組んでいます。

鹿児島大学農
学部との協働に



よる岸良の魅力発信に向けた調査・研究は、
膝を交えた協議の積み重ねによっていくつ
かの提案に至りました。私たちのこれからの課
題は、これらの提案をより迅速に具現化して
いくことです。その為にも、今後も引き続き、
鹿児島大学農学部と協働していきたいと思
います。』

第3分科会は、「観光による活性化」をメ
インテーマとし、農家民泊による学生・生徒の
受け入れ、農家民宿の可能性およびアンテナ
ショップ・特産品販売イベントへの参加をサ
ブテーマとして活発な議論が展開された。

第4分科会は、「山林とその活用」をテーマ
とし、山林の活用および限界集落対策をサブ
テーマとして、グリーン・ツーリズムへの新
しい提案が検討され、I ターン者の事例で岸
良の魅力を発信することが提案された。

第5分科会は、「地域エネルギー・情報発信」
をテーマに、地域エネルギーおよび光通信の
活用などをサブテーマとして議論が進められ
た。ロケットストーブを導入する研修会の開
催、情報機器の技術向上が提案された。

今後の課題と展望

鹿児島大学農学部からの提案には実現性の
高いものもあるが、実現可能性の低いものも
あった。例えば、地域特産物と地元住民向け
の弁当・総菜を揃えた直売所の設置、辺塚ダ
イダイを使った香水や石けん、「ロケットスト
ーブ」によるロケットの町と合わせた宣伝な
どは実現可能性が大きい。

しかし、提案を実現するには地元での意識
の高揚と組織体制の整備が必要であり、直売
所の設置や農産物加工には、その主体となる
法人格を持った組織などが必要である。

地元住民には行政に期待する声が多かった
が、地域おこしは行政のみでは実現できない
ため、行政と地元が連携して事業体を形成す
ることが必要である。具体的には地域売店を
兼ね備えた直売所の設置と、辺塚ダイダイの
石鹸、香水やアロマオイルづくりを製品販売
に結び付けるだけでなく、体験素材として活
用する方策、また山林、竹林を活用したグ
リーン・ツーリズムや民泊などがすぐに取り
組める課題である。

地区情報

構成集落

川口・港・東・本地・下西・上西・大原・
姫門・浜・船間・辺塚・大浦（12集落）

人口構成

(1) 総人口 792人
(65歳以上の割合 55%)

(2) 総世帯数 447戸
(うち農家戸数 394戸)

耕地面積:219ヘクタール

主要作物

米、果樹（ポンカン・タンカン）
ソラマメ、キヌサヤ、花卉

問い合わせ先

肝付町 農業振興課

電話番号：0994（65）8417

大隅地域振興局農林水産部農政普及課

電話番号：0994（52）2138

鹿児島大学農学部から

むらづくりに携わった感想

平成 23 年から肝付町岸良との付き合いが始まり、学生たちとともに岸良地域づくり協議会のメンバーと交流しながら、多くの調査協力もいただいて地域づくりの提案作りを行ってきた。岸良は自然豊かな魅力に満ちた地域ではあるが、鹿児島市内から学生たちを岸良に連れていくのは距離が遠く、多くのデメリットもある。それがまた地域の秘めたる魅力につながるのではないかという思いで活動をしてきた。

最終提案のためのワークショップには多くの地元の方々に参加していただき、大変充実した内容になったのではないかと思う。岸良には地域思いの方々が数多くおられ、それぞれが地域のための様々な活動をしながらアイデアを抱えておられた。

これらの思いをひとつの輪にして素早い意思決定ができる主体を形成していけば、我々が提案した構想もひとつずつ実現していくのではないかと期待している。

鹿児島大学農学部
教授 岩元 泉



地域リーダーと意見交換

協働団体の概要

代表者名/岩元 泉

所在地/鹿児島市郡元 1-21-24

連絡先/鹿児島大学農学部農業市場学・林政学
研究室

団体のPR/

鹿児島大学農学部の農業経営経済学及び森林政策学研究室では、地域の課題に即した学習機会と地域へ貢献する実践力を備えた学生の育成を目標にしている。そのため、カリキュラムにおいても農山村での実習を重視している。今回の共生協働のむらづくり事業にも実習や卒業論文研究をかねて取り組んだものである。



鹿児島大学農学部



辺塚ダイダイを使った石けんの試作品

『軽トラ市による地域農産物の販売や伝統芸能の継承』

事業実施主体: 上西校区(西之表市)
かみにし

協働団: NPO法人ジュントス

現状及び課題

上西校区は、西之表市街地の北部に位置し、市内 12 校区中、人口は 6 番目であるが、面積は 10 番目と小さく市街地に隣接していることもあり、過疎・高齢化が進みつつある。

当校区の営農形態は、畜産(酪農、肉用牛)、さとうきび、さつまいも、採種園芸等を組み合わせた複合経営であるが、65 歳以上の高齢農家が大半を占めている。各農家では、市場等への出荷のほか、庭先等で百円市(無人市)などを行っているが、品不足や管理の不備等の問題もあり思うように収益を上げられていない。

上西小学校近くには、地区の伊勢神社があり、正月には市内外から多くの参拝者が訪れる。校区がその運営を担っており、年間を通じて祭りや慰霊祭が開催されている。

また、当校区には、鹿児島県無形民俗文化

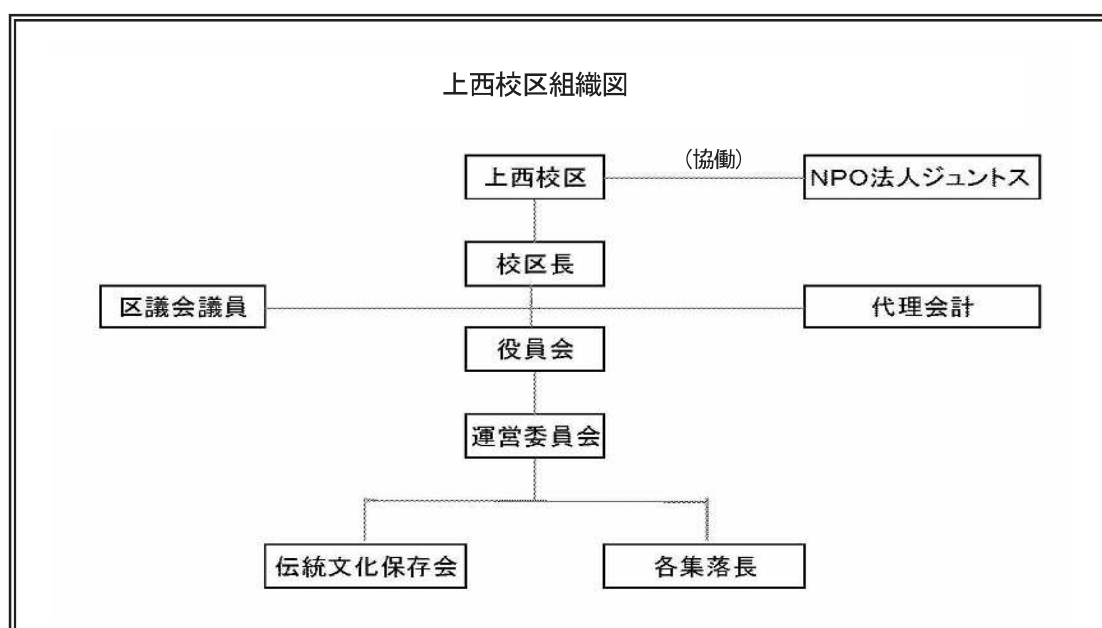
財に指定されている横山盆踊りがあるが、過疎、高齢化に伴い、その存続が難しくなりつつあり、後継者の育成が課題となっている。

活動内容

共生・協働むらづくり活性化事業に係る運営委員会を定期的開催し、活動内容等について検討を重ねた。



地域内外からの客で賑わう軽トラ市



事業の成果

活動のひとつとして、これまで各農家が個々に無人市等で販売していた野菜や花などを軽トラに乗せたまま販売する「伊勢の軽トラ市」を開催した。

開催場所や内容について検討したり、出店者の確保を図りながら、26年度は6回開催することができた。また、宮崎県川南町や肝付町の軽トラ市など先進地を視察し開催手法を学んだ。

また、伝統文化である「横山盆踊り」を継承するため、集落の伝統文化保存会メンバーが中心となり、地元の小中学生を対象に公民館等で踊りの指導を行い、練習の成果を横山集落の夏祭りで披露することができた。



盆踊りの指導

共生・協働の状況

定期的に校区の役員会や運営委員会を開催し、校区役員や各集落長をはじめ、地域おこし団体であるNPO法人ジュントスのメンバー及び関係機関が参加して活動内容の検討を行っている。

運営委員会では、活動計画や内容について検討するほか、それぞれの集落が抱える課題等を出し合いお互いに連携して、その課題を解決していくために意見交換を行っている。

その結果、むらづくり活動を校区民一体となって取り組もうという雰囲気が生まれてきた。

軽トラ市の開催については、時期によっては農産物の不作で出店者を確保できない月もあったことから、校区外の個人事業主からも参加を募った。その結果、お菓子や乾物等の加工品の出店も見られるようになり、回を重ねるごとに出店者は増えつつある。現在では毎回10台前後の軽トラが並ぶようになった。

開催場所についても、当初は伊勢神社の駐車場で開催していたが、場所が分かりにくいなどの意見が出たため、小学校前の校区事務所駐車場に変更した。

さらに、開催を周知するため、新聞折り込み用のチラシを作成配布したり、市の防災無線で広く広報したことにより、地域内外から来客者も増えてきた。特に地元でとれた米の販売に人気が集まっている。

高齢、小規模農家にとっては、少量・少品目であっても自分たちの作った農産物を直接販売できることから、生産意欲向上と生きがいづくりにより多大な効果を上げており、野菜の栽培・販売を通じて他校区の方とのふれあいやコミュニケーションの場としてかけがえのないものとなっている。

今後は、定期的に開催することにより、校区のイベントとして定着することが期待される。



地元農産物の販売を通じた交流

また、今後の開催方法等の参考とするため、同じような規模で軽トラ市を開催している肝付町朝の軽トラ市を視察した。神社前の通りを使った軽トラ市で、当地区と非常によく似た環境での開催であったことから、神社のある地域での開催であることをもっと活用することができるのではないかなど、今後の開催に関して多くのヒントを得ることができた。

無形文化財である横山盆踊りについては、地元小学生への踊りの指導や夏祭りでの披露により、広報活動と後継者育成活動ができた。伝統芸能活動に参加するなかで、地域意識や連帯感の醸成をはかることができ、文化財愛護意識の高揚も図られた。



夏祭りで披露された横山盆踊り

今後の課題と展望

軽トラ市については開催が定着しつつあるが、開催日程が行政や各地区の行事に左右されやすいので、学校や行政等とも連携をとりながら、今後も定期的に開催していく必要がある。また、他の地域では、商工会がメインとなって開催されているケースも多いので、同地区でも市内の商店街などと連携を取りながら規模の拡大を検討していきたい。

伝統文化継承の踊り手の高齢化と後継者不足という課題については、今後も継続して集落民全員による話し合い活動を行いながら取り組んでいく必要がある。

リーダーの感想

リーダー 上西校区

校区長 塩崎 義政 氏

『軽トラ市は、回を重ねるごとに出店者も増えてきた。時期によって品物が少なく消費者が満足できない時もあったが、一方で軽トラ市を楽しみにしている人の声も聞こえてきた。



今後、地元はもちろんのこと、他の地域からも協力をもらい、定期的なイベントとして開催できるようにしたい。

また、横山盆踊りの継承について、この事業の活用により小学生の参加があった。これを機会に地元の若い世代を引き込み、発表の場を増やすなど地域の活性化につなげていきたい。』

地区情報

構成集落（6集落）

池之久保・榎之峯・横山・大花里・花里崎
・大崎

人口構成

(1) 総人口 556人
(65歳以上の割合 45%)

(2) 総世帯数 293戸
(うち農家戸数 72戸)

耕地面積：165.62ヘクタール

主要作物

さとうきび、安納いも、スナップエンドウ

問い合わせ先

西之表市地域支援課

電話番号：0997(22)1144

熊毛支庁農林水産部農政普及課

電話番号：0997(22)0044

NPO法人ジュントスから

むらづくりに携わった感想

朝の軽トラ市に関しては、昨年度より今年度の実施回数が増え、回を重ねるごとにお客さんの数も増えていった感じがある。月ごとの定期開催によって、周囲への認知度が上がっていったのではないかと思う。出品数も次第に増えていった。視察した他の軽トラ市のように、開催日を「月の第〇日曜日」のように決めてやれば周知されやすいと感じた。

横山の盆踊りの伝承に関しても、私自身今回の活動で初めて接した。歴史的な流れのある盆踊りであるので、軽トラ市とも関連して盆踊りの紹介パンフレットを配布するなどして周知していけたらと感じた。

今回、この事業を通して上西校区や行政と連携してむらづくり活動に関わることができたことから、今後も連携を続けながら、様々な活動に取り組んでいきたい。

NPO法人ジュントス
理事長 榎本 孝



運営委員会の様子

協働団体の概要

代表者名/榎本 孝

所在地/鹿児島県西之表市東町7-4

連絡先/0997-22-1460

ホームページ/

<http://www3.synapse.ne.jp/juntos/>

設立年/平成12年11月

設立趣旨/

不特定多数の市民、団体に対して、幅広い分野でまちづくり推進活動及びそれに関する、交流、支援、協力、情報発信などの事業を行い、以て活力あるまちづくり、文化、芸術、スポーツの振興、福祉の増進、国際協力等の公益の増進に寄与することを目的とする。

団体のPR/

県内でも早くからNPO法人として活動を開始、現市長をはじめ、元副市長や元市議会議員、現市議会議員など数多くの行政指導者を輩出し、現在も西之表市の活性化を図るべく、精力的に幅広く活動をつづけている。



コミュニティ活動報告会